

平成29年度の重点課題

○男子 「握力」「ボール投げ」「立ち幅跳び」は全学年において県平均値かつ全国平均より値より低く課題がある。1・3年生においては、「長座体前屈」が県平均値かつ全国平均値より低い。

○女子 「ボール投げ」は1・3年生においては県平均値かつ全国平均値より低い。

○男女共通 1日の運動実施状況も実施時間も長いが、2時間以上の実施時間は全国より低い。

上記の課題を受けて具体的に取組んだ事項

○単元に応じた体づくり運動の「体力を高める運動」を保健体育の授業の中に毎時間補強運動として取り入れ、基礎的な筋力強化を図る。

○「握力」=握る力については、準備運動の段階で縄跳び運動を取り入れる。小学校との連携で小学校中学年から縄跳び運動を取り入れ、二重跳びが跳べるようになる目標を立てる。

○「ボール投げ」=投げる力については、肩甲骨を柔軟に動かすためのストレッチやトレーニングを入れ、投げる動作のポイントを授業で取り入れる。中学校からボールの大きさも変わることもあり、いろいろなサイズのボールに慣れさせ、投げる経験を増やす。

○走力については、全教職員の共通理解を図り、体育の授業だけでなく、部活動でも強化推進できるよう協力を求める。

平成30年度新体力テストの結果(県平均値(平成29年度)・全国平均値(平成28年度)との比較)

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシヤトルラン	持久走	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシヤトルラン	持久走	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第1学年	24.48	23.36	37.90	53.02	74.81		8.38	179.05	16.14	36.00	第1学年	20.60	21.24	40.07	50.74	58.03		8.99	164.55	11.59	45.83
第2学年	27.75	27.65	45.53	57.35	87.98		7.72	198.69	18.98	44.35	第2学年	23.93	23.49	46.18	51.30	59.90		8.72	170.75	11.66	51.58
第3学年	33.80	29.80	48.67	61.91	107.88		7.17	210.16	23.20	53.79	第3学年	26.73	26.88	50.51	52.31	60.28		8.47	180.71	14.23	57.84

県平均値かつ全国平均値未満

平成30年度新体力テストの結果(県平均値(平成30年度)・全国平均値(平成29年度)との比較)

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシヤトルラン	持久走	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点	女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシヤトルラン	持久走	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第1学年	24.48	23.36	37.90	53.02	74.81		8.38	179.05	16.14	36.00	第1学年	20.60	21.24	40.07	50.74	58.03		8.99	164.55	11.59	45.83
第2学年	27.75	27.65	45.53	57.35	87.98		7.72	198.69	18.98	44.35	第2学年	23.93	23.49	46.18	51.30	59.90		8.72	170.75	11.66	51.58
第3学年	33.80	29.80	48.67	61.91	107.88		7.17	210.16	23.20	53.79	第3学年	26.73	26.88	50.51	52.31	60.28		8.47	180.71	14.23	57.84

県平均値かつ全国平均値未満

重点課題

○男子 昨年度同様、全学年の「立ち幅跳び」「ボール投げ」は県平均値かつ全国平均値より低い。上体起こしについては、計測の仕方を少し厳しくしたこともあり、平均値より下がったと思われる。2学年においては、体力合計点が平均値より低い。

○女子 全学年「ボール投げ」が県平均値かつ全国平均値より低い。1・2年生は、「握力」「長座体前屈」「上体起こし」「50m」「立ち幅跳び」「体力合計点」が県平均値かつ全国平均値より低い。

重点課題に対応した改善する取組内容及び方法

○「ボール投げ」では、球技の単元(バレーボール、ソフトボール)の授業の導入でキャッチボールを取り入れ、投げる動作の習得を目指す。また、ソフトボールなどを3年間を見通して計画を立てていく必要がある。

○「立ち幅跳び」では、「跳ぶ」動作がうまくできていない生徒が見られる。準備運動で様々な「跳ぶ」動作を取り入れていく。

○1. 2年生の女子では、平均にとられるのではなく、全体の数値を少しずつ上げていくために、授業の中で思考の時間とのバランスを考えながら、活動の時間をしっかりと確保する。

平成31年度の目標値 全校生徒全種目、今年度の記録を超える。